

臨床試験

当院における経皮内視鏡的胃瘻造設術（PEG）の現状

徳弘 直紀¹⁾²⁾, 水野 滋章, 森山 光彦¹⁾, 井上 荘太郎²⁾

日本大学板橋病院消化器肝臓内科¹⁾, 荘敬会井上病院内科²⁾

[和文要旨]

東京都心部での経皮内視鏡的胃瘻造設術（以下PEGと略す）の現状を検討した。2008年4月～2011年3月までの3年間に当院（東京都渋谷区井上病院）でPEGを施行した計108症例を対象とし検討した結果、当初よりPEG目的の入院ではなく、入院中の経過でPEGを施行した群の73例では入院期間が平均87日、特にPEG施行後の入院期間が次の受け入れ先がなかなか決まらず61日と、当初よりPEG目的であった入院患者に比し有意に長期であった。その理由として受け入れ側の施設数の不足や施設の職員数不足の問題、家族側の認識の問題などが挙げられると考えられた。

続いてより詳細な現状把握のため、周辺施設の職員及び患者家族にアンケート調査を行った。その結果、PEGの適応の見直し、安易なPEGは避けることに加え、介護職員の医療行為に対するある程度の法的緩和、解禁など法的整備などが必要であると考えられた。そしてそれを実現するには、医療関係者のみならず、地域住民を対象とした医師会などの啓発活動が、今以上に必要と思われた。